幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局　橋本守行
電話090-7746-8689

第　２３　号
令和　２年　３月　１日

福岡県みやま市訪問　大頭流幸若舞見学

さる１月１９日から２１日にかけて２泊３日の行程で、大頭流幸若舞を伝える福岡県みやま市を訪問しました。メンバーは辻会長以下、城戸、高橋、月田、安井会員の５名で、２０日には大江天満宮に奉納された大頭流幸若舞を鑑賞しました。また、２０日夜には、家元の江崎恒隆氏をはじめ当地の幸若舞保存会（会長：松尾正春氏）のメンバーの反省会に参加しました。

みやま市長とも会見し、関係参考資料なども持ち帰りました。当幸若舞の里づくり会の活動状況については、インターネットに掲載された「幸若かわら版」などで承知しているとのことでした。

１９日と２１日には、柳川市街や大宰府天満

大頭流「浜出」の一節

舞堂前光景

松尾会長の口上

令和2年1月20日12時から大江天満宮で上演された幸若舞の概要

曲　目	浜出蓬莱山	浜出蓬莱山	日本記	扇の的	和泉ヶ城①	和泉ヶ城②
出演者	小学5年	小学6年	青　年	中　年	熟　年	熟　年
役　割	太夫、シテ、ワキ、鼓方それぞれ4名、合計24名					

＊見学者は約500名で、中高年者が多かった。

柳川川下り

反省会光景

令和2年度　新年会開催

本年の新年会は、一月二四日（金）午前一一時から「いと家」で、会員一九名が参加して行われました。

初めに、辻会長の挨拶の後、高橋会員から資料や写真をまじえて先般の福岡県みやま市訪問の報告がありました。（詳細は一、四面参照）

次に、打波会員から、橋本左内と幸若との関係についてもっとPRすべきとの持論が展開されました。また、松田会員からは、現代版幸若舞の子供の出演について、学校教育との関係や練習時間の確保について、問題点が報告されました。

そして、山口顧問からは、埼玉県在住の幸若子孫が保存していた資料調査の中間報告と、幸若舞曲「浜出」の解説があり、今後は、他の曲目についても順次勉強していきたい旨の発言がありました。

その後、会場を二階広間に移して、楽しい宴会が始まりました。

楽しい新年会

幸若舞 全容解明へ着々

戦国～明治 文書など81点

年度末 一部成果公表へ

寄贈史料調査を本格化

〝発祥〟の越前町

越前町教委は、同町朝日地区発祥とされる「幸若舞」の祖、桃井直詮の子孫から寄贈された古文書などの史料の調査を本格化させている。2018年から県内外の専門家を招いて精査しており、これまでに史料が計81点に上ることや、古文書群の年代が戦国期から明治半ばにかけて300年以上にわたることが明らかになった。今後調査が進めば、一子相伝の秘伝の舞である幸若舞の実態に迫る成果も期待される。（土生仁巳）

02.1.17

史料は直詮の流れをくむ敦賀幸若家の子孫、故桃井雄三さん（埼玉県坂戸市）が所蔵していた。越前町は桃井さんの遺族から18年3月に寄贈を受け、同年5月から元敦賀市立博物館長の外岡慎一郎・奈良大教授、同博物館学芸員の坂東佳子さんを招いて調査を始めた。19年度からは中世芸能史を専門とする須田悦生・静岡県立大名誉教授（美浜町出身）も加わり、史料の精査や目録の作成を進めている。

これまでに史料は全部で古文書79点、刀剣2点であることが分かった。さらに1575（天正3年の文書「織田信長禁制」が最も古く、一方で江戸期以降の文書も含まれていることが明らかになった。明治半ばの文書もあるという。

年代のほか内容についても、幸若舞の曲の歌詞に関する文書や、豊臣秀吉が直詮の子孫の小八郎家に充てた朱印状などが含まれていることが判明している。専門家はさらに調査を進め、全容の解明を目指す。

外岡教授は「幸若舞発祥地とされる越前町で史料を調査し、保存していくことが地元の誇りとなる。発祥地のPRにもつながるのでは」と指摘する。

町教委は2019年度末に刊行を予定している研究紀要に、目録や文書の概要など、調査成果の一部を掲載する予定。20年度末の研究紀要にも成果を掲載し、さらに21年には町織田文化歴史館で調査成果を踏まえた展示を検討している。

幸若舞　鎌倉時代の曲舞（くせまい）を源流とする中世を代表する日本芸能。現在の越前町朝日地区に生まれた桃井直詮が室町時代に創始したとされる。戦国時代に隆盛を迎え、特に出陣前に「敦盛」を舞った織田信長の愛好ぶりは有名。江戸時代には幕府の公式芸能「式楽」となったが、一子相伝の秘伝の舞でもあり、民衆には根付かず、朝日地区での幸若舞は明治時代に一族の上京によって消滅した。福岡県みやま市の「大頭流」が、現存する唯一の幸若舞。

敦賀幸若家の子孫が所蔵していた古文書群を調査する外岡教授（右）ら専門家＝昨年12月、越前町織田文化歴史館

令和2年1月17日　福井新聞記事

山口顧問による幸若講座（歴女の会）は毎月第4かまたは最終金曜日開催です

第83回幸若講座開催

2月28日

第八三回幸若講座が、二月二八日、幸若情報センターで、山口顧問・辻会長を含め一一名の参加を得て開催されました。

「一〇〇項」をテキストとして、四四項「幸若小八郎家」から五〇項「舞候儀ハ無御座候」までについて、山口顧問の講義を受けました、主として在所に伝わる文書による幸若諸家の主な履歴を学びました。

次回は三月二七日を予定していますが、新しい受講生を募っています、ふるってご参加ください。

第83回　幸若講座

みやま市・越前町児童交流事業開催

太鼓体験

本年も、1月17日、福岡県みやま市の児童15名が、本町を訪れ交流会が開催されました。平成６年7月に瀬高町（現みやま市）と朝日町（現越前町）が「幸若舞」を縁として姉妹縁組を締結したことから、始まりました。昨年11月には、本町児童がみやま市を訪問し、相互訪問が毎年続いています。

今回は、この交流事業が２５回目記念ということで合同合宿も行われました。また、村上学芸員から「越前幸若舞」について説明を受けるとともに、越前がにミュージアムを見学したり、旧織田地区の伝統和太鼓を経験したり、ゲームを行うなど、交流を深めました。

今後の主な予定

役　員　会	３月１３日	青少年ホーム
第８４回幸若講座	３月２７日１３時３０分	幸若情報センター
佐々生墓地清掃	４月１２日　９時	
顧　問　会	４月２２日１０時	朝日コミセン
監　　査	４月２２日１４時	朝日コミセン
理　事　会	４月２７日１９時３０分	青少年ホーム
総　　会	**５月１０日１０時**	**生涯学習センター**

＊３月の語り部の会例会は都合により中止ます。

福岡県みやま市を訪問して感じた

大頭流幸若舞

会員・城戸信弥

去る一月、大頭流幸若舞を伝える福岡県みやま市訪問団に参加した。その時に感じた印象などを思いつくまま記して会員諸氏のご参考に供したい。

＊大頭流幸若舞は昭和五一年九月に国の重要無形民俗文化財に指定されているが、福岡県では博多櫛田神社の祇園祭山車に先行しての指定であった。

＊生の実演を見ると、演技者の表情、声の音調、足音など、空気を通して感じられる臨場感があり、ビデオで見るのとでは大分違った。

＊小学校四年生から、学年ごとに夏休みから練習を始める。大江小学校では、全校生徒が、一緒に台詞を唱和し覚える。出演者以外のクラスメートは舞台下最前列で見学、応援する。小学生から学年別に、大人は世代別に後継者を育成する。

＊定期公演は年二回で、一一月と一月に行う。

＊大江流舞曲は四二番あり、曲目を忘れないために、毎年演目をローテーションしている。

＊幸若舞は語り物芸である。

朗吟（語る）、居舞い、立舞い、舞踏（手足）所作、動作、

＊兎歩（うほ）　舞台を前後にゆっくりと歩く

＊反閇（へんばい）　力強く足を踏み床を鳴らす

中国の陰陽師の足の運び、稚気を払い、正気を迎え幸運を開く

＊足を踏み鳴らすのは、四股を踏む動作で稚気を追い出す。舞台床下には甕（かめ）がいくつか置かれている。

＊舞台での歩みは、前後と攣掛（たすきかけ）の二つで、舞台の広さに合わせ、歩幅・歩数で調整

＊今回の舞台は、四間半×三間の広さであった。

＊演技者は世襲としないで、技量と人格、さらに熱意で、決定している。小学生が大人の会員として帰ってくるのは、六〇人に一人の割合で、現在大人の会員は一〇名である。

＊「敦盛」は大頭流にはなかったが、平成二一年「新調敦盛」として上演した。

＊保存会会員は大江の人を原則としている。

（一町相伝？）

＊大江地域限定の伝統芸能とし、地域の人材で守り続けている。全国に広げる必要はないと考えている。

＊伝統を地域限定で守っていく熱意は相当に強く、会員の使命感が伺われる。

＊私たちの目指す方向とは違っているが、不易流行をしっかりと踏まえて、相互の交流を深め、刺激し合い、活動を続けられたらと強く感じた。

保存会・松尾会長の礼状